ShinEtsu

しんえつ
リポート
139期報告書
2015年4月1日～2016年3月31日

Special Feature | 特集 |

さらなる成長への挑戦

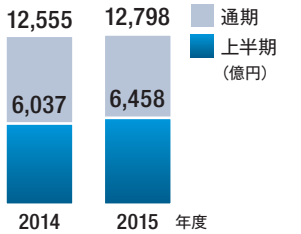
［企業価値拡大への取り組み］

シンエツハイライト Highlight

売上高

1兆2,798億円

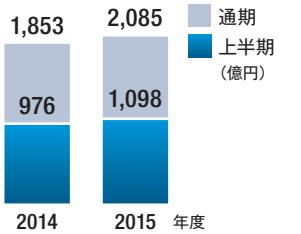
+1.9%
前期比243億円増



営業利益

2,085億円

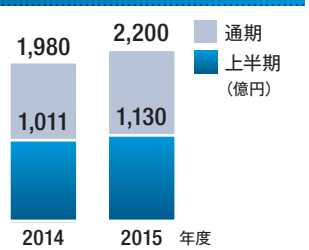
+12.5%
前期比232億円増



経常利益

2,200億円

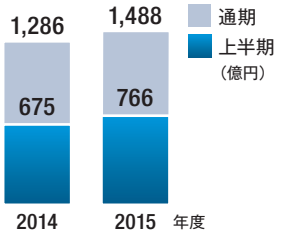
+11.1%
前期比220億円増



親会社株主に帰属する当期純利益

1,488億円

+15.7%
前期比202億円増



海外売上高比率

74.1%

純資産

2兆804億円

総資産2兆5,100億円

自己資本比率

80.8%

ご参考：自己資本2兆282億円

年間配当金

1株当たり
110円

ニュースクリップ

シリコーン電子材料技術研究所に新研究棟が完成

今年2月、群馬県にあるシリコーン電子材料技術研究所に、新たな研究棟が完成しました。竣工式で森俊三前社長（現取締役相談役）は、「シリコーン事業は、信越化学の主力事業の一つ。新研究棟を活用して、事業の根幹となる研究を進め、事業のさらなる飛躍を目指していきたい」と述べました。新研究棟の完成により、研究開発力をさらに高め、お客さまのニーズに応える新製品の開発に取り組みます。

シリコーン電子材料技術研究所 新研究棟（左側）

竣工式であいさつする森 前社長

Management's Message

株主の皆さまへ

世界市場の動向を見据え、積極的な営業活動と最適地での設備増強により事業基盤の強化に取り組んでいます。

株主の皆さまにおかれましては、
平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

●当期の概況

当期の業績は、連結売上高1兆2,798億円（前期比1.9%増）、連結営業利益2,085億円（前期比12.5%増）、連結経常利益2,200億円（前期比11.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益1,488億円（前期比15.7%増）の増収増益となりました。

●持続的な成長の実現に向けて

皆さまもご承知のとおり、当社事業を取り巻く世界的な経済状況および市場環境は、極めて不透明な様相が続いております。このような環境を積極的な成長の機会にできるのは、各分野でトップを走るものだけであると確信しています。

当社グループは2011年3月期より増益を続け、この2016年3月期には6期連続の増益を達成しました。さらなる収益の拡大に向けて今もなお挑戦を続けていますが、もとより増益を続けることは容易ではありません。この容易ではないことに挑戦し続けることこそが、私どもの推進力となっています。

私どもは、技術、製造コスト、品質、供給安定性、安全性、そして持続成長性など、事業のあらゆる面において、その分野でのナンバーワンとなるために日々努力しています。

一つの事例として、当社塩化ビニル樹脂（塩ビ）事業の旗艦となっている米国シンテック社についてご紹介します。三大樹脂の一つとして様々な用途で使われる塩ビは、建設資材としてインフラ整備に利用され、その需要は全世界で年間4,000万トンにも達します。塩ビはまさに汎用素材といえますが、それだけに塩ビの市況は世界の景気動向に影響を受けやすいものでもあります。その中にあってシンテック社および当社グループの塩ビ事業は、事業規模ならびに収益性の観点で、業界ナンバーワンの地位を維持し続けています。当社グループの優れた重合反応技術に加え、2000年以降実施してきた大規模な設備投資、そして絶え間のない更新投資により、シンテック社は世界で最も新しく、最も効率的な生産設備を擁しています。

シンテック社では、すでに生産増強計画の一部を完了しました。加えてエチレン工場の建設を進めることで、サプライチェーンのさらなる強化も図っています。現時点では世界的に見ても急速に塩ビの生産能力を拡大する動きはなく、当社の塩ビ事業は世界の塩ビ市場の中で優位な状況にあります。

シンテック社のほか、シリコーンやレア・アースマグネット、フォトレジストやマスクブランクス、光ファイバー用プリフォームでもそれぞれ国内外で生産能力の増強や新工場の建設を進め、既存事業の強化を図っています。

同時に将来の柱となる事業の創出に向け、世界のニーズを先取りした新規製品の研究開発と事業化にも力を注いでいます。シリコーン事業では、シリコーン電子材料技術研究所に新たな研究棟を増設するとともに米国にテクニカルセンターを新設し、研究開発を促進しています。また、半導体シリコンをはじめ、合成石英、フォトレジスト、マスクブランクス、封止材など半導体製造工程に使われる材料を多く扱っていることから、顧客の最新動向をいち早くつかみ、速やかに研究開発に展開することで、競争力の強化につなげています。

当社グループでは、今後もさらに必要な施策を推し進めながらそれぞれの分野でトップを目指し、持続的な成長の実現に向けて取り組んでいます。

●次期見通しと株主還元

今後の見通しにつきましては、米国の景気回復が期待される一方で、アジア、新興国の景気減速や、国内経済における海外景気の下振れの影響などが懸念され、予断を許さない状況にあります。当社グループでは、世界の市場動向を見据え、需要を的確に捉えた営業活動を積極的に展開し、最適地での設備増強などを一段と加速させていきます。

利益の還元につきましては、長期的な観点から事業収益の拡大と企業体質の強化に注力し続け、株主の皆さまには配当を通じて経営努力の成果を適正に還元することを基本方針としています。この方針に基づき、当期の年間配当金は、前期に比べ10円増配の1株当たり110円とさせていただきました。

創立90周年を迎える今年は、10年先の「創立100周年」に向けて、「売る力をさらに強める」、「技術の深耕と革新」、「意欲的な投資」に注力し、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長
金川千尋

取締役相談役（前代表取締役社長）
森俊三

社長就任のごあいさつ

2016年6月29日付で社長に就任いたしました斉藤恭彦です。金川会長とともに信越化学の成長を導かれてきた森前社長のあとを引き継ぐにあたり、身の引き締まる思いがいたします。社長として、会長のもとで安定した収益を維持、向上させ、引き続き会社の発展に努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長
斉藤恭彦

Special Feature | 特集 |

さらなる成長への挑戦

[企業価値拡大への取り組み]

信越化学グループは将来にわたる持続的な成長のために、既存事業の強化と新規事業の育成に注力しています。
需要の伸びを見据えた生産設備の拡張、原料からの一貫生産体制の強化、
主要製品に続く新たな製品育成に向けた研究開発体制の強化を積極的に行っています。
今回は成長の源泉となる投資についてご紹介します。

▶ 生産工場や研究施設への投資で成長基盤を強化

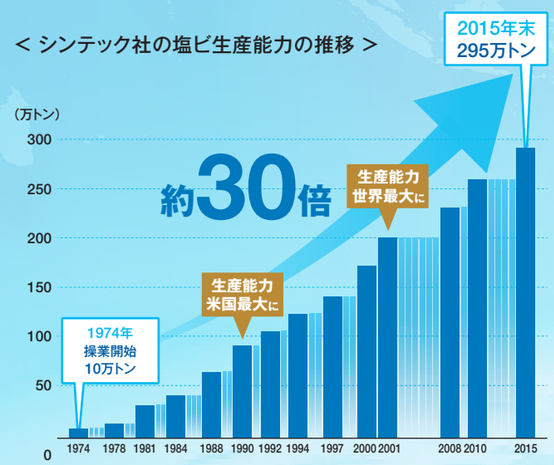
塩ビ・化成品

塩化ビニル樹脂（塩ビ）の30万トン増設が完了、世界最大の生産能力をさらに拡大

世界最大の塩ビメーカーである米国のシンテック社は、これまでも世界の塩ビ需要の伸びを捉え、生産能力の増強を繰り返し実施することで、その地位を強固なものとしてきました。総額5億ドル（約540億円）*を投じ進めてきた塩の電気分解、塩化ビニルモノマー、塩ビまでの一貫生産の増強では、2015年末に塩ビ30万トンの設備が完成しました。その結果、塩ビの年間の生産能力は、操業開始時の約30倍となる295万トンに拡大しました。世界の需要を見据え、今後もさらなる成長を目指していきます。

投資額 **5億ドル**　**シンテック社**　米国 ルイジアナ州（2015年末 完成）

＜ シンテック社の塩ビ生産能力の推移 ＞



機能性化学品

塗料用セルロース工場新設で需要拡大に対応

セルロース誘導体の製造と販売を手掛けるドイツのSEタイローズ社は、米国ルイジアナ州で1.2億ドル（約130億円）*を投じてヒドロキシエチルセルロース（HEC）の工場を建設しました。これによりHECの年間生産能力は当社グループ全体で9千トン増加し、2万7千トンになりました。既存のドイツの工場に加え、米国にも工場を有する強みを生かし、HECの主な用途である水溶性塗料の需要の伸びを捉えていきます。

投資額 **1.2億ドル**　**SEタイローズ社**　米国 ルイジアナ州（2015年末 完成）

SEタイローズ社　HEC新工場

シリコーン

新研究棟の建設で研究開発体制を強化

需要の拡大が期待されるヘルスケア、電気・電子、自動車、エネルギー、半導体などの有望分野における製品開発の強化や新たな用途開拓を目的として、群馬県のシリコーン電子材料技術研究所に新たな研究棟を増設しました。幅広い顧客ニーズにきめ細かく迅速に応えながら事業の拡大を目指します。

投資額 **50億円**　**信越化学工業**　日本 群馬県（2016年2月 完成）

新研究棟の視察を終えた森 前社長（中央右）と研究所のスタッフ

（＊ 1ドル=108円で換算した場合）

▶ 持続的な成長に向けて

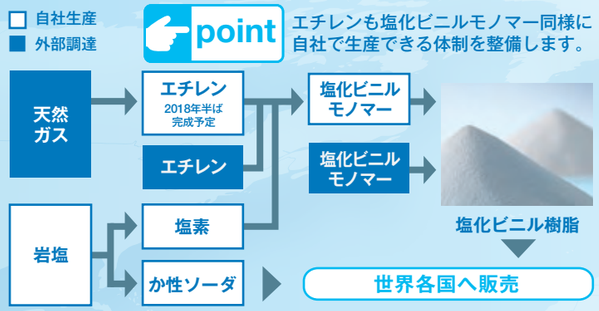
塩ビ・化成品

原料のさらなる安定確保を目指し、エチレン工場を新設へ

エチレンは塩ビの主原料の一つです。シンテック社は現在、シェールガスをはじめ豊富なエネルギー資源を有する米国で、エチレンの自社生産工場（50万トン/年）を建設しています。投資額は14億ドル（約1,500億円）*で、2018年半ばの完成を目指しています。これまで外部から調達してきたエチレンを自社でも生産することにより、原料からの一貫生産体制をさらに強化します。

投資額 **14億ドル**　**シンテック社**　米国 ルイジアナ州（2018年半ば 完成予定）

＜ シンテック社の原料からの一貫生産体制 ＞



シリコーン

海外および国内での生産体制の強化

電気・電子、自動車、住宅、化粧品やトイレタリー製品などの幅広い用途に用いられるシリコーンは、世界の市場で需要が伸びています。これに応えるため、当社グループでは、シリコーン電子材料技術研究所に新研究棟を増設して研究開発体制を強化するとともに、生産能力も増強しています。タイの拠点では、200億円を投じてシリコーンモノマーの年間生産能力を10万5千トン（従来の5割増）に、またシリコーンポリマーの年間生産能力を7万4千トン（従来の4割増）に増強する工事を進めています。日本（群馬県、新潟県）においても、200億円を投じてシリコーン製品の設備増強を進め、シリコーン事業の拡大に取り組んでいます。

投資額 タイ **200億円**　**アジア・シリコーンズ・モノマー社**　**シンエツ・シリコーンズ・タイランド社**（2018年内 完成予定）

投資額 日本 **200億円**　**信越化学工業** 群馬県、新潟県（2017年夏までに順次完成予定）

＜ シリコーンの用途例 ＞

ほ乳瓶

化粧品

電子・機能材料

《希土類磁石（レア・アースマグネット）》

工場新設で生産能力拡大へ

投資額 **120億円**　**シンエツ マグネティック マテリアルズ ベトナム社**　ベトナム　ハイフォン市（第2期工事:2016年末 完成予定）

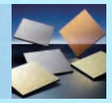
レア・アースマグネットは、ハイブリッド車をはじめとする自動車や、エアコン、産業機器、風力発電など幅広い用途で使われています。特に自動車向けでは燃費改善や安全性向上を目的とした技術の進展に伴い、レア・アースマグネットの需要が高まっています。当社グループはこれらに応えるため、日本国内だけで手掛けていた焼結工程をベトナムでも行うこととしました。2015年末に第1期分が完成し、現在、第2期工事が進行中です。総投資額120億円の工場新設により、生産能力は年産2千トン増加し、従来の能力に比べ1.5倍に拡大します。

《フォトレジスト、マスクブランクス》

生産拠点の複数化

投資額 **130億円**　**信越化学工業（フォトレジスト）** 台湾（2017年後半 完成予定）

投資額 **70億円**　**信越化学工業（マスクブランクス）** 日本 福井県（2016年末 完成予定）



半導体製造工程に欠かせない材料として、最先端のフォトレジストやマスクブランクスの需要が拡大しています。その旺盛な需要に応える供給体制を確立するため、それぞれの製品で生産能力の増強を進めています。フォトレジストでは130億円を投じて台湾に新たな工場を建設中で、2017年後半の完成を予定しています。また、マスクブランクスでは、70億円を投じ福井県に新工場を建設中で、2016年末の完成を目指しています。

それぞれの製品の生産拠点を複数化することで、安定供給を目指したリスクの分散と生産能力の増強を図ります。

《光ファイバー用プリフォーム》

需要地と直結した新工場建設

投資額 **125億円**　**信越化学工業** 中国 湖北省（2016年末 完成予定）

社会インフラの整備や通信データ量の増加により、光ファイバーの需要の拡大が続いています。当社は中国最大の光ファイバーメーカーと合弁会社を設立し、光ファイバー用材料の新工場を中国の湖北省に建設中です。投資額は125億円で、2016年末の完成を目指しています。

新工場の稼働により、当社の光ファイバー用プリフォームの生産能力は4割増加します。

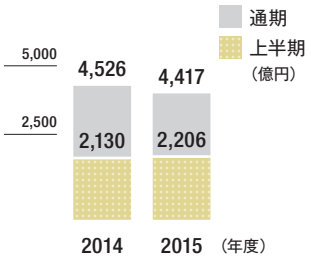
NET SALES / OPERATING INCOME BY SEGMENT ［ 事業概況 ］

塩ビ・化成品　売上高比率 34.5%

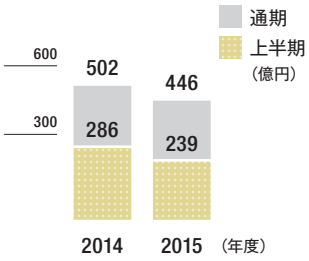
- 米国シンテック社は、北米需要が2%減少するなかで、米国内での販売を伸長させたことに加え、世界中の顧客への積極的な販売に努めたことで出荷は堅調に推移しました。
- オランダのシンエツPVC社は、前年度後半に原料調達先で生じた設備トラブルの影響を受けました。
- 国内事業は、輸出が伸長したものの、住宅関連向けが振るいませんでした。

主要製品　塩化ビニル樹脂、か性ソーダ、メタノール、クロロメタン

売上高 -2.4%



営業利益 -11.1%

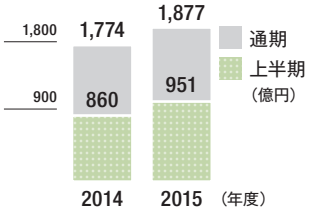


シリコーン　売上高比率 14.7%

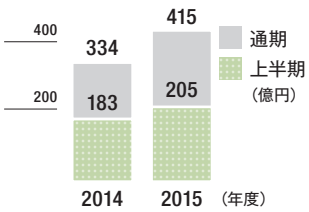
- 国内は、電気、電子向けの一部で需要の鈍化が見られたものの、化粧品や自動車向けなど幅広い分野で出荷が堅調に推移しました。
- 海外は、欧米のほか東南アジア向けの高機能製品が好調に推移しました。

主要製品　シリコーン

売上高 +5.8%



営業利益 +24.2%

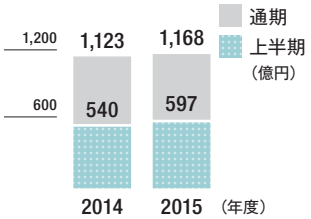


機能性化学品　売上高比率 9.1%

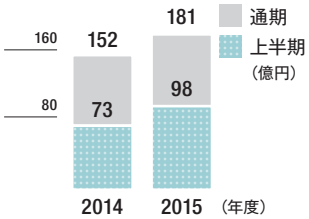
- 国内のセルロース誘導体は、医薬用製品や建材用製品の出荷が堅調でした。
- ドイツのSEタイローズ社のセルロース誘導体は、塗料用製品を中心に順調に推移しました。
- 豪州のシムコア社の金属珪素は、出荷が堅調に推移しました。

主要製品　セルロース誘導体、金属珪素、ポバール、合成性フェロモン

売上高 +4.0%



営業利益 +19.1%

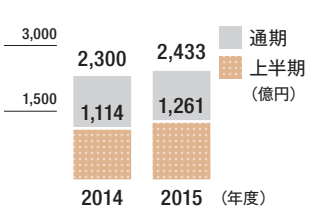


半導体シリコン　売上高比率 19.0%

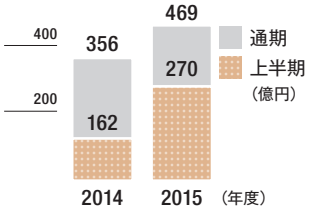
- スマートフォンをはじめとする電子機器需要の減速に伴い、ロジックデバイスの在庫調整の影響を受けましたが、メモリデバイス向けの出荷は総じて堅調に推移しました。

主要製品　半導体シリコン

売上高 +5.8%



営業利益 +31.7%

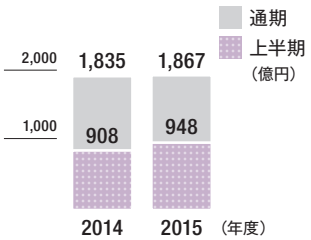


電子・機能材料　売上高比率 14.6%

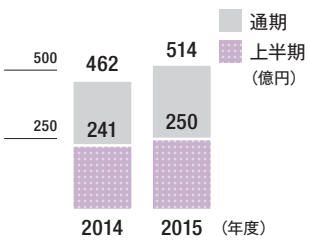
- 希土類磁石は、産業機器向けが振るいませんでしたが、ハイブリッド車をはじめとした自動車向けが堅調に推移しました。
- フォトレジスト製品は、ArFレジストや多層レジスト材料が底堅く推移し、マスクブランクスは大きく伸長しました。
- LED用パッケージ材料は堅調に推移し、光ファイバー用プリフォームの出荷は好調でした。

主要製品　希土類磁石、半導体用封止材、LED用パッケージ材料、フォトレジスト、マスクブランクス、合成石英製品、液状フッ素エラストマー、ペリクル

売上高 +1.8%



営業利益 +11.4%

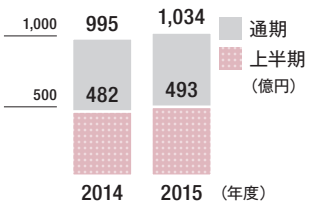


その他関連　売上高比率 8.1%

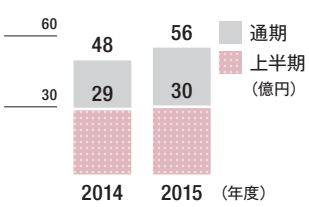
- 信越ポリマー社の自動車用入力デバイスや半導体ウエハー関連容器は好調に推移しました。
- 信越エンジニアリング社のエンジニアリング事業は底堅く推移しました。

主要製品　樹脂加工製品、技術・プラント輸出、商品の輸出入、エンジニアリング

売上高 +3.9%



営業利益 +16.7%



会社概要

Company Profile

会社概要

（2016年3月31日現在）

商号	信越化学工業株式会社
設立	1926年9月16日
資本金	119,419,688,785円
本社	〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番1号
電話	03（3246）5091（広報部）
URL	http://www.shinetsu.co.jp/
従業員数	18,407名（連結）

役員

（2016年6月29日現在）

代表取締役会長	金川　千尋
代表取締役副会長	秋谷　文男
代表取締役社長	斉藤　恭彦
専務取締役	石原　俊信 上野　　進
常務取締役	髙杉　晃司 轟　　正彦 秋本　俊哉 荒井　文男 松井　幸博 宮島　正紀
取締役相談役	森　　俊三
取締役	フランク･ピーター･ポポフ*1 宮﨑　　毅*1 福井　俊彦*1 小宮山　宏*1 笠原　俊幸 小根澤　英徳 丸山　和政 池上　健司 塩原　利夫 髙橋　義光 安岡　　快
常勤監査役	岡田　　理 岡本　博明
監査役	福井　　琢*2 小坂　義人*2 永野　紀吉*2

*1 社外取締役
*2 社外監査役

株式の状況

（2016年3月31日現在）

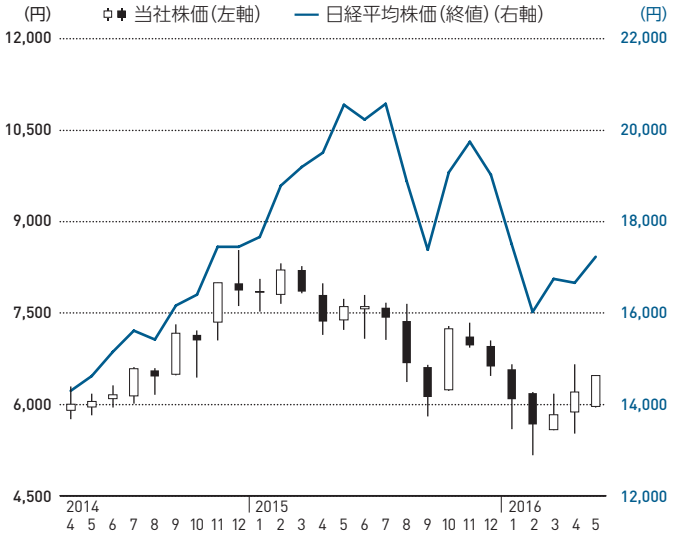
発行する株式の総数	1,720,000,000 株
発行済株式総数	432,106,693 株 （注）自己株式6,127,692株が含まれております。
株主の総数	54,699 名

大株主（千株未満は切捨表示）

株主名	持株数（千株）	出資比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	41,394	9.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	32,268	7.6
日本生命保険相互会社	21,933	5.1
株式会社八十二銀行	11,790	2.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4）	11,512	2.7
明治安田生命保険相互会社	10,687	2.5
GIC PRIVATE LIMITED	6,487	1.5
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	6,467	1.5
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	6,315	1.5
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	5,357	1.3

（注）当社は、自己株式6,127,692株を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。また、出資比率は自己株式を控除して計算しております。

株価の推移



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当受領株主確定日	3月31日
中間配当受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
公告掲載方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。 （http://www.shinetsu.co.jp/） ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告によることができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京・名古屋
株主名簿管理人 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 電話 0120-232-711（通話料無料）

株式に関するお手続きについて

■ 証券会社等の口座に記録された株式

【 お手続き、ご照会の内容 】

- 郵送物などの発送と返戻に関するご照会
- 払渡し期間経過後の配当金に関するご照会
- 株式事務に関する一般的なお問い合わせ

【 お問い合わせ先 】

三菱UFJ信託銀行
証券代行部
電話 0120-232-711
（通話料無料）

<上記以外の住所変更、配当金の受領方法の指定・変更等のお手続き、ご照会など>
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください

■ 特別口座に記録された株式

【 お手続き、ご照会の内容 】

- 特別口座から一般口座への振替請求
- 単元未満株式の買取・買増請求
- 住所、氏名などのご変更
- 特別口座の残高照会
- 配当金の受領方法の指定
- 郵送物などの発送と返戻に関するご照会
- 払渡し期間経過後の配当金に関するご照会
- 株式事務に関する一般的なお問い合わせ

【 お問い合わせ先 】

三菱UFJ信託銀行
証券代行部
電話 0120-232-711
（通話料無料）

Made in Fukushima
この印刷物は、復興支援の一環として、福島県の印刷会社に製造を依頼し発行したものです。
VEGETABLE OIL INK